

令和4年 No.78
初春 **ねんが**号

あきばさん

発行人/発行所
秋葉山 新井寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
電話047-357-8319
FAX047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968



当山住持

謹賀新年

令和四年改歳かいさいの令辰れいしんにあたり、当寺檀信徒ご一同様、秋葉講中の皆様、梅花講・月例坐禅会・写経会の皆様、さらに有縁無縁信心の願主、皆様の健康第一に福寿ご多幸を心よりご祈念申し上げます。

昨年は、続くコロナ禍のため、現代に生かされている日本中・世界中の皆様が物心共に辛苦にみまわれた大変な一年でした。本年は、叡智を生かしてこのコロナ禍を超越し、物心共に調和のとれた平和な年となりますよう、お互いに忍耐強く努力精進いたしましょう。

昨年は、仏教界でも大きなできごとがありました。私たちの曹洞宗のご本山である大本山永平寺貫首 福山諦法師たいほう様、大本山總持寺貫首 江川辰三しんざん三禅師せんげ様が諸行無常の理ことわりのごとく、相次いで遷化せんげ(逝去)されました。まさしく曹洞宗の一大事ではあります。私たちがこの深いかなしみを乗り越えて両禅師様の尊いご遺徳やみ教えを正しく継承し、宗教の本質である世界の平和に向かって世のため、人のため、自分自身のために半歩でも一歩でも、日常生活を通じて勉強修行していかねばなりません。

さて、この一月は大本山永平寺を開かれた道元禅師様が誕生された月です。

道元禅師様は、一二〇〇年一月二十六日に京都でお生まれになりました。十三歳で天台宗の公円こうえん座主ざすについて出家得度し、当時 名僧とされた和尚様方をたずねてあらゆる仏道修行をされましたが、納得がいらず、一二二三年二十四歳のとき、臨済宗 栄西禅師の高弟 明全様と共に中国へ渡られました。さまざま修行を重ねて縁があつて機が熟し、ついに天童山で「正師しょうし」如浄にじょう禅師様に相遇することができたのでした。さらに仏法の奥義を窮めつくすべく精進され、お悟りを開かれました。一二二七年に帰国し、正師 如浄禅師様の「深山幽谷にあつて、本物の弟子を育て、正伝の仏法を継承するように」というみ教えのもとに建立された人材育成の道場が現在の大本山永平寺です。以来、約八百年にわたり、日本の、世界の大本山永平寺として、若き修行僧たちが正伝の仏法を求めて日夜厳しい修行に切磋琢磨しております。

どうぞ、本年も檀信徒はじめご縁の皆様には、ご先祖様への報恩ご供養と自身の心の修養かたがた、皆様の菩提寺および両大本山へのご信仰を深められ、ご精進のほど、よろしくお願い申し上げます。

合掌

今年もよろしく

お願ひします

寅年

真達羅大将

山本崇文

新年を迎え、皆さまにおかれましては益々ご清祥のことと存じ上げます。

本年も浄禅寺の薬師瑠璃光如来の脇
仏日光・月光菩薩、その守護神である
十二神将の紹介をいたしましょう。
十二神将は、薬師如来の十二の誓願に
応じて方角・時刻・月・干支に配当さ
れ、信仰されています。

本年寅年は、宝棒と人々の願いを叶
えるといわれる宝珠を持つ「真達羅
大将」。方角は北東やや東、時刻は



寅年 守護神
「真達羅大将」

午前四時、月は一月、本地仏は普賢菩薩。真言は「オン・シンダラ・ソワカ」です。

さて、皆さまも年頭に際し、本年を素晴らしい一年にするために、本年よりも素晴らしい来年を迎えるために、「今年も精進いたします」という気持ちであろうかと思えます。ただし、自分の努力が直ぐに報われないと、どうしても「せっかかくやったのに・・・」という思いになって無駄なことをしているのではないかという錯覚に陥ります。

『修証義』に「善悪の報に三時あり」とあります。自分が行かないという「原因」をつくってから、それに応じた報いという「結果」を受けるには、その巡り帰るスピードパターンが大きく見て三パターンあるということです。
順現報受・順次生受・順後次受。直ぐか、後か、ずつと後か。いつかわからずに、行かないという積み重ねをしてい

くことはもどかしいことではありませんが、それにとらわれることなく、私たちがいますべきことをする。それを「精進」といいます。

「今年も精進いたします」。よろしくお願ひいたします。

合掌

(野田市 浄禅寺住職・戌どし)

知的な努力

松井純照



本年も皆様方の毎日が無事に『円成』されますことを祈念いたします。

マドカ(円)にナル(成)と書いて『エンジヨウ(円成)』と読みます。穏やかに満たされ、成し遂げるという意味です。

東京葛飾 柴又に生まれ育った、「フーテンの寅さん」こと、車寅次郎(映画『男はつらいよ』主人公)の名ゼリフといえば「それを言っちゃあおしまいよ」でしょう。この言葉は初め、寅さん役、渥美清さんのアドリブだったそうです。

この言葉について監督の山田洋二氏は「家族であれ、近所であれ、職場であれ、人と仲良くしていくには、非常に知的な努力が必要である。この言葉は、ストレートに言えば角が立つことも笑い話にして、その奥に本音をそつとしのばせている」と語っています。また、道元禅師様は『人の間違いを見て、いけないと思つたら、慈

悲心をもって教えてあげなさい。その人が腹を立てないようにあれこれと方法を考えて、それとなく教えてあげなさい』とおっしゃっています。

虎視眈々^{こしたんたん}と人のあら探しをし、鬼の首をとったかのように責め立てる昨今の風潮にもかなったお言葉だと思いません。容易なことではありませんが、常に頭の中に置いておきたいものです。

本年が「炎上」してしまわないように、寅さんを見習って知的な努力を積み重ねてまいりたいと思います。そして、一日、一週間、一ヶ月、一年が無事円成^{えんじやう}できますよう、皆様方のお力をお借りして大切に行じてまいります。

合掌
(松戸市 瓊仙院守塔・寅どし)

ほんまもんの日暮し

松井百合子

あけましておめでとうございませう。みなさまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

コロナ禍の中で、しばらくお寺にお参りに来られる方も少なくなってきましたが、その中でも、天候にも左右されることなく、毎月、同じ日のほぼ同じ時間にならざるお参りに来られる方がたがあります。その方がたのお姿や何気ない会話からは、ご先祖様・ほとけ様への深い念^{おも}いが感じられ、わたし自身もどこかほっとするような安心感をおぼえます。

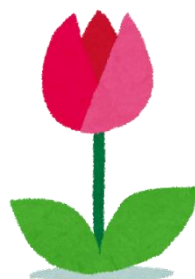
大本山永平寺の故宮崎奕保^{えきほ}禅師様は、「人間はまねをせなあかん。学ぶということはまねをするというところから出ている。一日まねをしたら一日のまねや。ところが一生まねしておつたらまねがほんまもんや」とおっしゃいました。

毎日、毎日、そして一生続ければ「ほんまもん」。実際に考えると、そう

やさしいことではありません。毎月欠かさずお参りに来られる皆様に、ほとけ様への「ほんまもん」のご供養の心を教えていただいているようです。

今年は、自分にできることを毎日続けるということを大切にしていきたいと思います。

合掌
(当山寺族・丑どし)



あけまして

おめでとうございませう

松井礼子

チューリップは明るい光に向かって伸びていき、寒暖にあわせて開いたり閉じたりを繰り返す春の花のひとつです。その前向きでたくましい姿を見てみると、いつも心を動かされます。穏やかで心豊かな年になりますように。

(花屋秋葉山店主・卯どし)

一日作さざれば

松井量孝



中国唐の時代の百丈懐海禪師に「一ひやくじようえかい

日不作 一日不食 — 一日作さざれば

一日食さず」という教えがあります。

禪宗において、作務さむ（掃除や炊事、畑仕事などの労働）は重要な修行の一つとされてきました。作務を修行として重んじ、

禪寺修行の規範「清規しんぎ」を定めたのが百丈禪師です。この言葉は、禪寺修行のエピソードから生まれた教えです。

百丈禪師は、高齢になっても休むことなく毎日の作務に勤しんでいました。万が一怪我をされたら、体調を悪くされたら・・・。ご高齢の禪師を心配して、作務は自分たちでするので、どうかお休みいただけられないものだろうかと思つた弟子たちは、作務の道具をすべて隠してしまいます。道具を探したものの見当たらず、やむなく作務を休まれた禪師は、食事をとらなかつたというのです。心配した弟子たちが理由をたずねると、「一日作さざれば 一日食さず」と答えられたのでした。

自分にはなすべきことがあつて、それを行なうだけの力もいただいているのに、成すことができなかつた。食事をいただくだけのことをしていないから、食事をいただくことはできない。

それが百丈禪師のおもいででした。作務の報酬として食事をいただくということではありません。いま、自分がなすべきことと全力で向き合い、ていねいにつとめあげる。それが、いただいたいのちを生きるということなのです。

わたしは、「一日」というところにさらにこの教えの深さがあると感じています。大切なことは、いま、ここです。きょう、明日の分の作務をすることはできません。食べ貯めも、作務貯めもできません。その日その日、自分がなすべきことをつとめていく。その積み重ねが大切なのです。

いま自分がなすべきこと。それは、おかれている環境などによつてさまざまでしょう。病気のときは、しっかりと休養する。「何もしないこと」がなすべきことというときもあるのかもしれない。自分のなすべきことは何かとおもいをめぐらし、そのことを成すことができ

た一日であつただらうか。ぼんやりといまを過ごしてしまいがちな自分に、問いかけてまいりたいと思います。皆様のご清安をお祈りいたします。

（当山 副住職・編集小子・未どし） 合掌

しんせいじの 年中行持

- 一月一日 元旦祝禱諷經
- 二月十五日 釈尊涅槃會
- 三月二十一日 春ひがん法要
- 四月八日 釈尊降誕會
- 六月九日 先代方丈様報恩忌
- 七月十六日 おせがき
- 九月二十三日 秋ひがん法要
- 十一月十八日 秋葉火防大祭
- 十二月八日 釈尊成道會
- 十二月三十一日 年越し坐禅會

※ コロナ禍により、変更や中止となる場合があります。

月例行持

- 坐禅會 第四日曜日 午後三時から
- 写經會 第四土曜日 午前十時から
- 梅花講（御詠歌） 月二回 午前九時半

※ 月例行持は、現在お休みさせていただきます。